

作成日：2026年2月13日（第1版）
西暦2015年1月～2024年12月にコードブルー（CB）、Rapid Response System（RRS）の起動対象となった患者様・ご家族様へ
「Rapid Response System (RRS) の浸透と有効性の検討」へのご協力をお願い

1 研究の概要

【研究の背景・目的】

Rapid Response System（RRS）（院内迅速対応システム）は、予兆段階での介入により院内心停止や予期せぬ ICU 入室、院内死亡の減少に寄与するとされます。一方で、施設間・時期間での導入状況や浸透度には差があり、Code Blue (CB)（心停止時の院内コール）件数との関連や患者転帰への影響を10年スケールで精査した研究は限られています。本研究では、名古屋市立大学病院における過去10年間のRRS・CBの起動件数及び患者転帰を解析しRRSの有効性について検討することを目的といたします。

【研究の対象となる方】

2015年1月から2024年12月までの10年間におけるRRS・CB起動の対象患者

【研究期間】

この研究の実施を許可された日から西暦2026年12月31日まで

ご自身またはご家族がこの研究の対象者に該当すると思われる方で、ご質問等がある場合は、「7 相談やお問合せがある場合の連絡先」へご連絡ください。

この研究は、名古屋市立大学医学系研究倫理審査委員会の審査を受け承認されたうえで、研究機関の長から実施の許可を受けています。また、この研究が適正に実施されているか、継続して審査を受けます。

この委員会にかかわる規程等は、以下のWebサイトでご確認いただけます。

【名古屋市立大学病院臨床研究開発支援センター “患者の皆さまへ”】

URL：<https://ncu-cr.jp/patient>

2 研究の方法

この研究では、研究対象の方の診療情報を電子カルテから収集して利用します。名古屋市立大学においてデータを取りまとめ、以下の内容について時系列解析を行います。

1. RRSの起動数上昇は、CB発生の低下と関連するか。

「RRSが起動する＝なにかおかしい」と健康状態に異常が発生している状態です。RRSが早めに入院患者に対応することで、実際に心停止のコールがどのように推移したかを分析します。

2. RRSの起動数上昇は、院内死亡率および予期せぬICU入室率の低下と関連するか

RRS 起動対象となった入院患者がその後どのような経過をたどったかを追い、院内死亡率や予期せぬ ICU 入室率がどのように推移したかを分析します。

年別（必要に応じて月別）の RRS/CB 起動件数を算出し、入院患者数または延べ入院患者日で標準化した起動率（例：1000 入院あたり）を算出します。

RRS 浸透度（RRS 起動率）の推移と、CB 発生率、ICU 転棟率、院内死亡率等の関連を評価します。

3 この研究で用いるあなたの情報の内容について

対象期間（2015/1/1～2024/12/31）に起動した RRS イベント：約 350 人、CB イベント：約 400 人（合計約 750 人）。

電子カルテを参照し、必要最小限の診療情報を収集します（年齢、性別、入院診療科/病棟、起動日時、起動理由/基準、対応内容、ICU 転棟の有無、院内心停止の有無、ROSC（自己心肺再開）の有無、退院転帰）。

4 研究の実施体制

この研究は、名古屋市立大学が単独で実施します。

研究責任者：医学研究科 先進救急災害医学 教授 服部 友則

5 個人情報等の取り扱いについて

患者 ID は、電子カルテから必要最小限の情報を抽出するための照合にのみ使用しますので、解析する際には個人が特定できることはありません。

研究対象者ごとに研究用 ID（研究対象者識別コード）を付与し、患者 ID-研究用 ID の対応表は別ファイルとして作成し、研究責任者が厳重に管理します（アクセス権限を研究責任者および必要最小限の研究分担者に限定する）。

なお、研究用 ID および解析用データセットには個人の識別に繋がる情報（氏名、生年月日、住所、電話番号、患者 ID/カルテ番号等）を含めません。

6 この研究の資金源および利益相反について

企業等の関与により研究の公正さが損なわれる可能性がある状態のことを、「利益相反」といいます。企業等から研究資金の提供を受けている場合等には、利益相反を適切に管理する必要があります。

本研究の計画・実施・発表に関して可能性のある利益相反はありません。

7 相談やお問合せがある場合の連絡先

この研究について知りたいことや、ご心配なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。また、この研究の計画について詳しくお知りになりたい場合は、研究に参加している他の方の個人情報や研究の知的財産等に影響しない範囲で、資料をお渡ししたり、お見せしたりすることが可能です。

また、この研究にあなたの情報が利用されることを希望されない場合は、外来受診時や電話によりご連絡ください。その時点であなたの情報を研究対象から取り除きます。ただし、研究の進捗状況によっては、あなたの情報を取り除くことができない場合があります。またこの研究であなたの情報が他の研究機関へ提供されることはありません。

研究事務局：名古屋市立大学大学院医学研究科先進救急災害医学
名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 番地
052-858-7391 (救命救急センター直通)
事務局担当者：服部 友紀、藤本 和真
(対応可能な時間帯) 平日 9 時から 17 時まで
対応者：藤本和真